

全国高校総体

全国高校総体(インターハイ)は8日、北海道の石狩市スポーツ広場などで行われ、ソフトボール男子の明徳義塾は準決勝で啓新(福井)に競り負け、3位だった。

バレーボール男子の高知は予選グループ戦で大垣大(岐阜)に勝ち、9日の決勝トーナメントに進んだ。柔道男子団体の岡豊は1回戦で京都先端科学大付に敗れた。



【男子準決勝 啓新-明徳】6回裏明徳2死1、二塁、由佐が右前に適時打を放ち、6-6とする(石狩市スポーツ広場)

明徳 大健闘 3位

攻守成長 充実の笑顔

5月の県体決勝は攻守にミスを通発しながら、高知工に8-6でどうにか勝利。これでは全国で勝つのは難しい」というのが、多くの県内関係者の吉だった。しかし、その予想を覆す上位進出。チームは2カ月半で、驚きの急成長を遂げた。

この日の準決勝で今大会4本目の本塁打を放つなど、投打に大車輪の活躍だったエースで3番の大岡が目立つ。ただ、自身も7日の準々決勝で代

打本塁打を放った主将勝間は胸を張る。「チーム全員が力を出し切ったからこそ、ここまで勝ち進むことができた」。3本塁打が飛び出し、県体決勝と同じ8-6で打ち勝った準々決勝。外野からの本塁好返球で、

最終スコアの差と同じ2点を防いでいる。宮本、林の二遊間ら内野陣も、県体の時とは見違えるほど、グラブさばきが軽快になっている。準決勝では、連投の疲れで制球の定まらない大岡を懸命にリードする捕

ソフトボール
(石狩市スポーツ広場)
▽男子準決勝
啓新(福井)
00240017
20030106
明徳義塾

(啓) 上ノ町、松崎、清川
(明) 大岡、田甲、由佐
▽本塁打 大岡(明)▽三塁打 宮本(明)▽二塁打 中川、玉村、山下(以啓)
▽同決勝

島原工(長崎)
11001003
00000000
啓新
(島原工は初優勝)

手の由佐が、一回の先制打と六回の同点打。最後まで諦めず、粘つていくと打席に入ったと笑った。由佐だけではない。選手らに涙はなく皆、笑顔。充実感たっぷりの様子だ。広田監督も「最後に負けたのは監督の責任。選手は本当によくやってくれた。よく成長した。頼りなく見えたチームが、北の大地から輝くメダルを南国土佐に持ち帰った。(井上太郎)